



岡山大学 ナノバイオ標的医療の 融合的創出拠点の形成

ICONT (Innovation Center Okayama for Nanobio-targeted Therapy)

岡大 医学・医療の最前線 2

ナノバイオでがん医療革新

今年6月に成立したがん対策基本法に基づき、厚生労働省が2007年度に実施するがん対策の全容が最近明らかとなりました。最大のポイントは進行したがんにもなう苦痛を和らげる緩和ケアの充実を含めて、がん医療の地域格差をなくす

ことです。また、その体制の整備に国と地方自治体が果たすべき役割が明確にされ、「がん診療連携拠点病院」を質・量ともに充実することが課題となっています。

岡山県では既に地域拠点病院に指定されていた岡山済生会総合病院、岡山赤十字病院、倉敷中央病院、津山中央病院に加えて、8月に新たに岡山大学病院が都道府県拠点病院に指定され、この診療連携の中核を担うことになりました。岡山大学病院では、10月1日に新しく「腫瘍センター」を立ち上げ本格



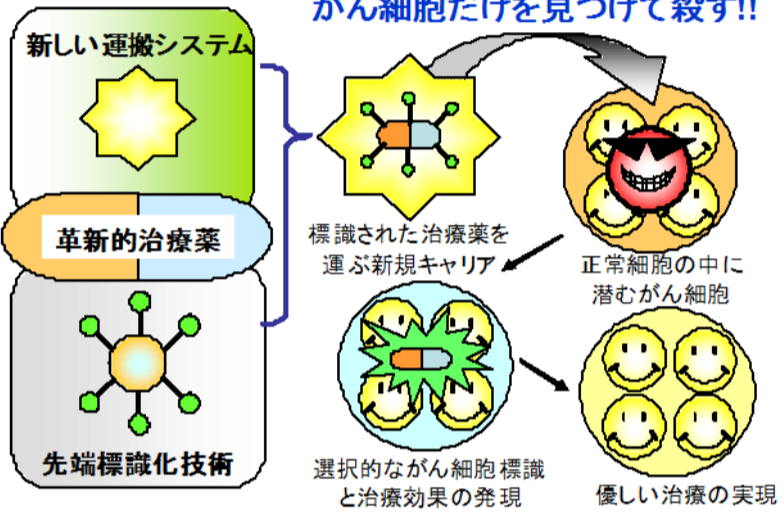
公文 裕巳 (岡山大大学院医歯薬学総合研究科長)



岡山大が標的医療の融合的創出拠点の形成事業を展開することが決まり、10月24日に開かれたシンポジウム (岡山コンベンションセンター)

がん医療の革新を目指すナノバイオ標的医療

がん細胞だけを見つけて殺す!!



+先端融合: 物理エネルギーの併用、次世代細胞治療

今や男性の半数、女性の4分の3が80歳の誕生日を迎える時代であると同時に、男性の半数、女性の3分の1ががんに罹患する時代でもあります。私たちの体は約60兆の細胞で構成され、生きていく限りつねに分裂を繰り返しています。喫煙をはじめとする種々の発がん因子により傷ついた遺伝子の修復がだんだんと出来なくなり、年齢とともに遺伝子の異常が蓄積してがんが発生することもある種避けられないことでもあります。

つまり、高齢化社会においてがんは特別な病気ではなく、ごくありふれた病気となっており、「細胞レベルで悪いところを早めに診つけて、そこだけを優しく治す」革新的ながん医療の創出が国民的課題となっています。

科学技術創造立国を目指す国の総合科学技術会議が政策決定した2006年からの最重要課題である「先端融合領域イノベーション創出拠点の形成」事業として、岡山大学は「標的医療イノベーションセンター」を設立し、協働企業7社とともに標的医療の拠点形成事業を展開することになりました。

ご承知のように、岡山大学は1999年に以降、国内初の肺がん、前立腺がんの遺伝子治療臨床研究を実施し、完遂した国内唯一の機関です。2003年には病院内に省令施設として遺伝子・細胞治療センターが開設され、この領域においては日本を代表する施設となつていきます。